

令和 6 年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立狛江高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭（総務部主任兼務）＝事務局長 1 名、及び事務局員 1 名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部主任）、主幹教諭（生活指導部主任）、主幹教諭（進路指導部主任）、主任教諭（総務部主任）、主任教諭（第 1 学年主任）、主幹教諭（2 学年主任）、主幹教諭（3 学年主任）、計 1 0 名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授等）3 名、学識経験者（弁護士）、地域代表・学識経験者、地域代表・近隣中学校長、同窓会等代表、PTA 代表、計 8 名

2 令和 6 年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第 1 回～3 回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第 1 回 令和 6 年 6 月 2 6 日＜出席者＞ 内部委員 1 0 名 協議委員 5 名
教育活動報告。協議委員委嘱。協議委員紹介。評価委員の選出。
令和 5 年度学校経営報告。令和 6 年度学校経営計画。
本校の現状と課題等説明。
 - 第 2 回 令和 6 年 1 1 月 2 1 日＜出席者＞内部委員 1 0 名 協議委員 5 名
令和 6 年度上半期学校経営報告。教育活動報告。学校評価の内容検討。
アンケート項目の検討。
 - 第 3 回 令和 7 年 2 月 7 日＜出席者＞内部委員 1 0 名 協議委員 5 名
教育活動報告。令和 6 年度下半期学校経営報告。学校評価のアンケート結果の分析結果報告。評価委員長から学校長への提言。
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第 1 回 令和 6 年 1 1 月 2 1 日＜出席者＞ 内部委員 3 名 協議委員 2 名
学校評価の基本方針の確認。昨年度の学校評価結果の分析・考察。
今年度の学校評価の内容。実施時期、評価の観点に向けた検討。
 - 第 2 回 令和 7 年 2 月 7 日＜出席者＞ 内部委員 3 名 協議委員 2 名
アンケート集計結果の分析・考察。課題の整理。評価報告書の検討。
分析による次年度の課題等の提言内容の検討。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で評価する。

（2）アンケート調査の実施時期・対象・規模

12～1月実施 生徒抽出 988人、回収 732人、回収率74.1%
保護者抽出 988人、回収 375人、回収率38.0%
教職員59人、回収56人、回収率84.9%
地域276人 回収64人、回収率23.1%

（3）主な評価項目

学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、部活動、国際理解教育、自己理解、進路実現、等

（4）評価結果の概要

【学習について（生徒・保護者問1～問7）】

昨年の保護者回答では、進路実現に対応した学力向上、教え方の工夫、授業への満足度等、学年が上がるに従って肯定的な回答の割合が増加する傾向が見られたが、今年は、生徒・保護者の回答ともに2年生で肯定的な回答が多い一方、3年になると肯定的な回答の割合が減る傾向が表れている。受験を目前にして生徒が学びを実感できる学習指導を工夫し実践していく必要がある。また問6夏期講習等の充実については、生徒の満足度は高いものの、保護者からは肯定的に評価されていない面がある。志望大学受験に向けた取り組みを保護者からの理解を十分に得る必要がある。

問7生徒が課題意識を持った授業への取り組みについては、生徒、保護者とも全般的に肯定的な回答の割合が低い。生徒の意欲を引き出しながら、学力の定着や向上を生徒が実感できるような指導の継続が求められている。

【生活について（生徒・保護者問8～問12）】

部活動、体罰・いじめ、カウンセリング等の対応については、肯定的な意見が90%以上である。一方、校則については、生徒・保護者ともに疑問を感じている割合がやや多い傾向が見られる。校内でも改善すべき内容は改善を進め、生徒・保護者への説明も丁寧に行い、理解を得られるよう取り組む必要がある。

【進路について（生徒・保護者問13～問16）】

保護者回答では、進路相談・面談について、3年生で肯定的な意見の割合が低い傾向である。

生徒の回答では、昨年と比べ肯定的な回答の割合が増えている傾向が見られるため、生徒の進路に向けた意識と保護者の意識の差異が考えられる。生徒には、自分の進路についての目的意識をしっかり考え、自覚させると同時に、保護者との話し合いや面談を計画的に実施し、学校、生徒、保護者が一体となり、目標とする進路実現を図ることを目指す必要がある。

【特別活動（問17～問19）】

特別活動については、95%以上の肯定的な回答があり、満足度が高い結果である。今年度は、体育祭、文化祭、オーストラリア姉妹校との交換留学等に加え、海外修学旅行も再開し、学校行事をコロナ禍になる前の形で実施できたことも要因である。

【健康・安全・施設・運営（生徒・保護者 問20～）】

回答で特に目立つのは、校内設備、校内美化について、肯定的な回答の割合が低い点である。

トイレ、水回り等については、学校広報の学校見学会の来校者アンケートでも指摘されることがある。施設の老朽化等にも対応しながら、計画的に維持管理する必要がある。

【その他】

地域回答より、本校生徒の一部が自転車通学時の交通ルールや電車に乗車する時のマナーを守ることについて「まったく当てはまらない」という回答が寄せられている。校外での行動について、自覚を促す指導を継続する必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒や保護者へのアンケート結果より、学校生活への充実感が高いことや、学校生活全般の質の向上に対する期待が大きいことがわかった。
- ・協議委員との活発な意見交換により教育活動全般を振り返り学校経営に活かすことができた。
- ・保護者、地域、近隣中学校等からの本校への関心・期待が非常に高いことがわかった。今後も教育活動をより一層充実させながら連携を深めていく。・昨年度よりも自宅学習時間を確保することができている。今後は、今年度に整備した自習室を活用しながら主体的な学習活動を推進していく。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・文化祭や体育祭などの学校行事や、オーストラリアや台湾の姉妹校との交流や修学旅行等の国際理解教育について一定の満足は得られているが、今後は更に充実した内容としていく必要がある。
- ・国公立大学や難関私立大学への進学を目標とした授業改善や必要に応じた講習や補習を実施するなど、全学年生徒への組織的な進路実現に向けた取組が必要である。
- ・学校全体として、生徒、保護者との進路相談や面談が十分であるとはいえない。
- ・一部の生徒ではあるが、自転車乗車時のルールや電車に乗車する時のマナーが守られていない。
- ・施設の老朽化はあるが、学校美化に対する肯定的な意見が少ない。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・本校のグラウンドデザインに基づいた教育課程の適切な実施と、特に評価が高い国際理解教育を中心とした学校行事等の教育活動の更なる充実を図る。
- ・保護者、地域、その他の関係機関との連携を深め、教育活動のより一層の充実を図る。また、Classi や学校HPなどのオンラインの連絡ツールを活用しながら情報を発信する。
- ・今年度に整備した自習室を活用し、放課後や自宅での主体的な学習時間を確保する。また、3年生のみならず1・2年生も学習する場を活用できるようにする。
- ・学校美化、施設老朽化には改善できるところから適宜対応する。

(2) 学習指導

- ・高いレベルでの大学進学に目標を定めた授業改善を学校全体で推進する。また、長期休業日中の講習は共通テスト対策講座等を設定し、組織的・計画的に生徒の学力向上を図る。
- ・外部模試の事前事後にオンライン学習ツールを活用し、基礎学力の定着・向上を図る。
- ・生徒による授業評価アンケート、教員相互の授業参観、研究授業等を活用しながら授業力向上を図る。また、校内研修を組織的に計画しながら実施していく。

(3) 特別活動

- ・生徒の満足度の高い学校行事や部活動では、更に生徒の主体性を育成する。協議委員の意見も参考に今後はより一層の充実したものとする。
- ・部活動指導員を活用しながら、効率的、効果的な部活動を推進していく。
- ・防災教育については、地域と連携を図りながら具体的な状況を想定し充実させる。

(4) 生活指導

- ・「挨拶の励行」「規範意識の向上」「ルールやマナーの遵守」等の指導を更に充実させる。
- ・自転車乗車時のルール、電車に乗車する時のマナー等、規範意識の醸成に向けた生徒指導を充実させる。また、自転車乗車時のヘルメット着用も生徒、保護者へ促していく。
- ・学習と部活動との両立のために活動日や活動時間をバランスの良く設定する。
- ・校則の見直しについては、生徒や保護者と共通理解を図る。

(5) 進路指導

- ・共通テスト受験に向けた進路指導について、成果と課題を明確にしながらか対応する。
- ・進路部と各学年が密に連携し、1年生から3年生まで系統的、かつ組織的・計画的な進路指導を充実させる。また、生徒・保護者との面接指導を適切に実施する。
- ・長期休業日中の講習や日常的な補習等を効果的に設定し進路指導に活かす。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多分そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	1					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

【成果】 内部委員による報告等により職員へ周知した。委員の意見を参考に、目指す学校像に基づく教育活動の充実化に向けて改善することができた。

8 その他

- ・学校評価アンケートの内容をさらに精査・分析し、学校経営に活かしていく。
- ・学校評価アンケートの回収方法を検討し、回収率を上げていく。